

大竹伸朗 本館インスタレーション作品 「熱景/NETSU-KEI」

タイトルは「熱景/NETSU-KEI」としました。

お話をいただいた時にテーマは「エネルギー」と決めました。宇宙の摂理や道後に湧き続けるお湯とエネルギーとの関係について、といったことです。

道後温泉を地球上のパワースポットと捉え、できるだけそれに沿う方向を目指し、最終的に色や形を通して見ていただく方が少しでも元気になっていただければと思いました。

今日初めて完成形を拝見しましたが、僕がやったことなんて微々たるもので、その後撮影なりこの巨大な印刷物、そして設置などいろんな方のお世話になったなど。本当に、原画をはるかに超えて素晴らしいものにしていただいた事に深く感謝致します。

このお話をいただいたのは今年(2021年)の4月です。確か4月6日にスタッフの方が宇和島に来ていただいて、最初は面食らったというか、僕なんかでいいのかというのが正直な思いでした。道後温泉は古くからの由緒ある場所であることはもちろん存じ上げておりました。

30年以上前、制作の拠点を東京から宇和島に移し現在に至るのですが、当時二人の娘が小さい頃は家族で道後温泉に来て、砥部町で動物園に寄り、その後、皿の絵付けをして帰るというのが定番のコースでした。

このお話をいただいた時は、大変光栄だという思いから二つ返事でお受けしたのですが、「30m×30m×20m」の規模のものは手がけたことがなく、スタッフの方が松山に帰られてからだんだん不安になってきました。また3年という長い展示期間なので、うまくいけばいいけれども駄作を作ってしまったら…というのを考えると眠れない日々が続いて。当然住まわれている方は通勤通学の時に見たり、毎日巨大な素屋根を目にする方もおられるわけで、これはとんでもないことをお受けしたのじゃないかと、かなり考えてしまいました。1週間ぐらいは、どういった技法を使おうかということも含めてなかなか糸口が見つかりませんでした。

最終的に、ハサミやカッターといった道具を極力使わず、初心に帰り指先だけによる「ちぎり絵」で作ったら面白いのではと思いました。

まずは様々な種類の紙を用意し、調色した自家製色紙を数十種類作りました。

それらを手でちぎり貼る作業をひたすら繰り返し、原画はひと月余りで完成しました。

商店街を出て突き当たる西面は色紙の表面を、そこから左手に通じる北面には色紙表面を薄く剥がした裏面を主に使い、全体の色調を変えました。

自分としては、とにかくやり切ったというか、これ以上できないなというところまでやったので、原画に関しては後悔はありませんでしたが、果たしてその原画が印刷工程を経て巨大化された時にどうなるのか、というのが最も見えない部分でした。

西・北面は人が近くまで寄れるのですが、鷺の方(南面)は人が通れない車道なので、そちらの方は遠目から見てもわかりやすいことを考慮して具象的なものがいいたろうなど。あと、通路として近づける面はインスタ映えというやつですが、背景としてどこを切り取っても耐えうるよう原画のディテールや密度にこだわりました。

先ほども申し上げましたが、その後の原画撮影やそのデータ化、拡大印刷や設置などの素晴らしい技術のご協力を経て、原画とは比較にならないほど素晴らしい素屋根にいただいたと思っています。

また私事ですが、僕の母が1年前に99歳で亡くなり、先週法事で1周忌があったのですが、母が生前ちぎり絵をやっていて、子どもを連れて行くとお土産にくれていたものがあって。ちょうど4月にお話をいただいた時は、色々親不孝の反省をしていた頃で、その時に(母の)ちぎり絵が出てきたりして、そんなことも今回の手法に関係しているのかな、とふと思った次第です。

